

各位

株式会社池田泉州銀行  
池田泉州キャピタル株式会社

～腸内細菌を活用した生物育種技術で持続可能な水産業の実現に貢献します～

イノベーションファンド 25Next による  
ホロバイオ株式会社への投資実行について

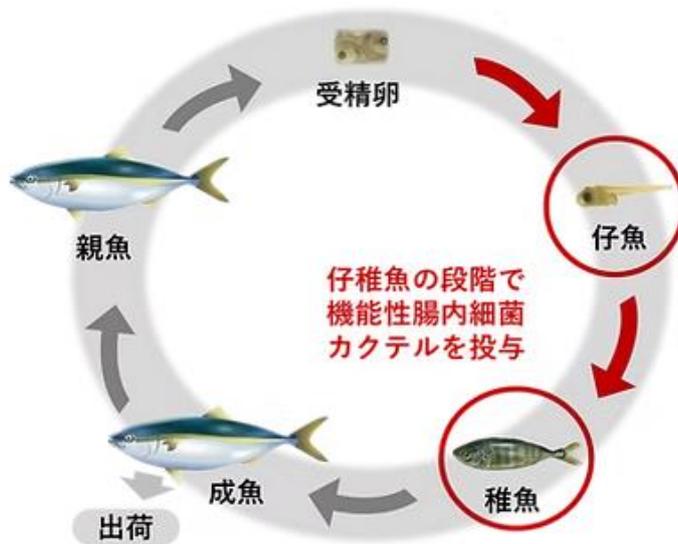
池田泉州キャピタル株式会社（社長 田中 耕）が運営し、株式会社池田泉州銀行（頭取 CEO 鶴川 淳）等が出資する「関西イノベーションネットワーク 2号投資事業有限責任組合（愛称：イノベーションファンド 25Next）」は、2025年2月14日付で、ホロバイオ株式会社（本社：京都府京都市、代表取締役 梅田 眞郷）に対し、投資を実行いたしました。

イノベーションファンド 25Next は、地域社会における新事業の創出等産業振興に寄与し、大阪・関西の地域経済の発展や雇用の確保に繋がると期待され、2025年大阪・関西万博が目指す「SDGs が達成される社会」や「Society5.0 の実現」に貢献する技術・ビジネスモデルを持った企業を投資対象としております。

ホロバイオ株式会社は、魚の成長を促進する機能性腸内細菌で養殖漁業の課題解決を図る京都大学発スタートアップ企業です。魚の腸内には多様な機能をもつ腸内細菌叢が存在し、成長や免疫機能等に重要な役割を果たしていると言われております。当社は、様々な魚から収集した機能性腸内細菌を、養殖魚の仔稚魚に投与することによって腸内細菌叢の最適化・機能強化に取り組んでおり、実証試験レベルでは生残率改善、成長促進及び免疫抑制等を達成しております。養殖漁業において餌代の高騰や海水温上昇による感染症の増加等が懸念されるなか、当社取組は養殖漁業の持続的な発展に寄与することが期待されます。

当行グループはイノベーションファンド 25Next を通じて、SDGs⑨「産業と技術革新の基盤をつくろう」、⑭「海の豊かさを守ろう」の実現に貢献するホロバイオ株式会社を支援いたします。

【ホロバイオ株式会社の生物育種技術アプローチ】



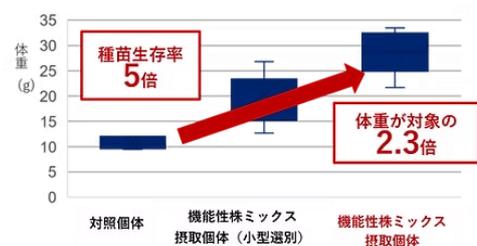
ニジマスの体長比較 (飼育6ヶ月後)



上：菌体摂取なし  
下：菌体摂取あり

体長が対象の  
**1.3倍**

孵化後60日齢カンパチ稚魚の生存・成長率の比較



出典：ホロバイオ株式会社 提供資料

【投資先概要】

社名	ホロバイオ株式会社
代表取締役	梅田 眞郷（うめだ まさと）
所在地	京都府京都市西京区御陵大原 1 番地の 36 京大桂ベンチャープラザ
設立	2020 年 4 月
事業内容	機能性腸内細菌を活用した生物育種技術の開発
URL	<a href="https://www.holo-bio.com/">https://www.holo-bio.com/</a>
ビジョン	生物の力で、未来を支える
SDGs の実現	 

【ファンド概要】

名称	関西イノベーションネットワーク 2 号投資事業有限責任組合 （愛称：イノベーションファンド 25Next）
ファンド総額	29.3 億円
有限責任組合員(LP)	岩谷ベンチャーキャピタル合同会社、公益財団法人大阪産業局、大阪信用保証協会、関西テレビ放送株式会社、サントリーホールディングス株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社ダスキン、南海電気鉄道株式会社、日本生命保険相互会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、三井住友信託銀行株式会社、株式会社ゆうちょ銀行、株式会社ユニオン、株式会社読売新聞大阪本社、ロート製薬株式会社、株式会社池田泉州銀行
無限責任組合員(GP)	池田泉州キャピタル株式会社
投資対象	大阪・関西万博が目指す「SDGs が達成される社会」「Society5.0 の実現」に貢献する技術・ビジネスモデルを持った企業
投資形態	普通株式、優先出資 等
設立日	2023 年 5 月 30 日
存続期間	10 年（最大 3 年まで延長可）
連携機関	大阪府、大阪市、堺市、大阪商工会議所、公益財団法人大阪産業局、地方独立行政法人大阪産業技術研究所、株式会社池田泉州銀行 （2023 年 5 月 30 日付『「関西イノベーションネットワーク 2 号投資事業有限責任組合」を通じた連携に関する協定書』を締結）